2021年10月29日

各　位

会 社 名 株式会社中村超硬
代表者名 代表取締役社長　井上　誠
（コード：6166、東証マザーズ）
問合せ先 取締役管理本部長　藤井　秀亮
（TEL. 072-274-1072）

# 業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

2021年５月14日に開示いたしました2022年３月期の業績予想について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

また、下記のとおり減損損失（特別損失）を計上することとなりましたので、併せてお知らせいたします。

記

## Ⅰ．業績予想の修正について

１．2022年３月期第２四半期(累計)連結業績予想の修正（2021年４月１日～2021年９月30日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | １株当たり当期純利益 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想（Ａ） | ― | ― | ― | ― | ― |
| 今回発表予想（Ｂ） | 1,832 | 101 | 100 | △51 | △4.94 |
| 増減額（Ｂ－Ａ） | ― | ― | ― | ― | ― |
| 増減率（％） | ― | ― | ― | ― | ― |
| （ご参考）前期実績（2021年３月期第２四半期） | 1,375 | △49 | △52 | △153 | △7.74 |

２．2022年３月期通期連結業績予想の修正（2021年４月１日～2022年３月31日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | １株当たり当期純利益 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想（Ａ） | 4,600 | 600 | 600 | 800 | 79.83 |
| 今回発表予想（Ｂ） | 4,100 | 200 | 200 | △350 | △32.62 |
| 増減額（Ｂ－Ａ） | △500 | △400 | △400 | △1,150 | ― |
| 増減率（％） | △10.9 | △66.7 | △66.7 | ― | ― |
| （ご参考）前期実績（2021年３月期） | 3,806 | 167 | 181 | 7 | 0.75 |

３．修正の理由

電子材料スライス周辺事業における中国の江蘇三超社に対するダイヤモンドワイヤ製造装置等の固定資産譲渡案件（以下、南京 PJ）において、同社との間で新たな合意を得るべく協議を重ねてまいりましたが、両社の主張の乖離は大きく、当事者間の協議により解決することは困難な状況であると判断し、代理人を通じ、同社と法的な解決に向け協議を開始しております。

これにより、当連結会計年度に計上予定であった南京PJに係る収益（売上高：650 百万円、特別利益：750 百万円）の計上は困難な状況であり、2022 年３月期通期の業績見通しの修正を行うことといたしました。

また、前回公表において未定としておりました 2022 年３月期第２四半期(累計)連結業績予想について、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。

2022 年３月期通期連結業績予想における各セグメントの売上高の内訳は以下のとおりです。

| | 前回発表<br>予想数値 | 今回発表<br>予想数値 |
|---|---|---|
| 特殊精密機器事業 | 900 百万円 | 940 百万円 |
| 化学繊維用紡糸ノズル事業 | 3,000 百万円 | 3,000 百万円 |
| 電子材料スライス周辺事業 | 650 百万円 | 140 百万円 |
| マテリアルサイエンス事業 | 50 百万円 | 20 百万円 |
| 計 | 4,600 百万円 | 4,100 百万円 |

① 特殊精密機器事業

特殊精密機器事業においては、工作機械分野における先行きに不透明感はあるものの、産業機械向け実装機用ノズルの売上が好調に推移しており、当期売上高は 940 百万円を見込んでおります。

② 化学繊維用紡糸ノズル事業

前期から続く不織布関連分野の売上は好調に推移しており、受注環境も好調に推移していることから、2021 年５月に開示したとおり、当期売上高は 3,000 百万円を見込んでおります。

③ 電子材料スライス周辺事業

南京 PJ に係る収益計上を見込むのは難しい状況であるため業績見通しから外しておりますが、これまで開発を進めていた半導体向けダイヤモンドワイヤの販売や新型ダイヤモンドワイヤ製造装置の販売などにより、当期売上高は 140 百万円を見込んでおります。

④ マテリアルサイエンス事業

ナノサイズゼオライトの開発を進めておりますが、サンプル提供している企業において、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開発に遅れが生じている影響を受け、当期売上高は 20 百万円を見込んでおります。

なお、山全社と共同で進めているパイロットプラントについては 2022 年 3 月期中の稼働を目指し、計画通り進捗しております。

なお、損益面については、上記修正理由の影響を受け減益となるものの、営業利益・経常利益として200百万円を計上する見通しでありますが、当期純利益については、ナノサイズゼオライト事業におけるパイロットプラントの機械設備を後述の会計基準に従い減損損失（約410百万円）を計上する必要があるため、損失計上となる見通しであります。

※ 上記の予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性がございます。

Ⅱ．特別損失（減損損失）の計上

当社が新規事業として取り組んでいるナノサイズゼオライト事業については、現在、事業化に向け取り組んでいるところでありますが、開発途上であり、販売先も確定していない状況であることから、将来の収益見通しに一定の不確実性が認められます。そのため、2022年３月期中の稼働を目指す同事業のパイロットプラントに係る機械設備については、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損処理を行うこととなり、その結果、2022年３月期第２四半期連結会計期間において、減損損失として97百万円を特別損失に計上いたしました。

なお、パイロットプラントに係る投資については、上記理由により当連結会計年度において合計約410百万円（第２四半期連結累計期間：約97百万円、第３四半期連結会計期間：約180百万円、第４四半期連結会計期間：約130百万円）を減損損失として特別損失を計上する見通しであります。

以　上